

いま 風 木曜日

群馬県みなかみ町での犬ぞり体験。インストラクター、平井俊介さん(30)に「二人羽織」状態で犬ぞりを操縦してもらった。相棒は、1〜6歳のミックス犬6頭だ。

「オーケー」。平井さんのかけ声でスタートしかけたが、1列目で異変が。リードドッグのビワイ(6歳、メス)が隣のアナ(同)にちょっかいを出している。ビワイとアナのコンビはこの日が初めてで、どちらが主導権争いのようだ。「ノー」。叱られたビワイはおとなしく従い、その勢いよくスタートした。

犬ぞり

中 ■ 鍛錬編

魔の下り左カーブ

犬に引かれたその日は、意外と揺れが少なく安定している。時速は自転車程度の約15キロ。静かな銀世界で、シャッターとこの滑る音と風の音、そしてかすかに犬の呼吸音が響くさまは幻想的だ。

「グッジョブ！ アナ」ボンボン、ユアアグレイト！ 私の頭越しに、平井さんが優しく犬たちに声をかける。ほめて伸ばす主義か。「犬が嫌がったらできないですから」と平井さん。ウチの上司

にも見習ってほしい。無事約5キロの旅を終えた。1頭ずつ、ごほうびのスープをあげる。おなかすいたよね。頑張ってくれてありがとう。次はいよいよ一人乗りで1キロコースに挑戦。足元のプレ

「キを外して「オーケー」と声をかけると、犬たちは平井さんやカメラマンを乗せて先導するスノーモービルを追い、元氣よく走り出した。よし順調。しかしやがて迎えたのが下り坂で左カーブの難所。減速のためブレーキをかけようとしたが足を踏み外し、頭から盛大に雪に突っ込んだ。あーあ。(松崎美保)



平井さん(後ろ)のアシストで犬ぞりを体験する(1月7日、群馬県みなかみ町の水上高原スキーリゾートで) = 岩佐謙撮影



① 今度は一人乗り……

② あー、やっちゃった

③ しゃべん、でも負けない

記者 まつざき・みほ 最近は漫画「世界の終わりに柴犬と」(作・石原雄)が気になっている。



犬に成功体験を

犬ぞりでは、犬とのふれあいが大切だ。平井さんらからの助言は以下の通り。
▽褒める時は名前を呼ぶ。逆に叱る時には名前を呼ばず、短い言葉で声色を変える。叱る時に名前を呼ぶと、犬は自分の名前に嫌なイ

メージを持ってしまう。
▽いきなり犬の目の前に手を出さない。下から体をなで、頭の上、最後に顔周辺を触る。犬が痛がる持ち方や抱き方はしない。
▽犬ぞり訓練では、犬の間で上下関係を作らせない。犬は平等で、

人間が唯一のリーダーだと思わせる。別の犬をいじめる場合、きちんと叱れば学習する。
▽遊びでは、人間がなるべく負けてあげる。成功体験を重ねると、犬は人と遊ぶことが楽しくなる。

* 次回(2月6日)は「犬ぞり⑥」。
* 『でかける』は毎週木曜掲載。